

Title	表紙・目次ほか
Author(s)	
Citation	史林 = THE SHIRIN or the JOURNAL OF HISTORY (1988), 71(3)
Issue Date	1988-05-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/238974
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

一九八八年
五月二十五日
発行



第71巻 第3号

史学・地理学・考古学

論 説

- ビザンツ貴族と皇帝政権……………根津由喜夫 (1)
——コムネノス朝安定化への過程——
- 中世の屋敷墓……………勝田至 (41)
- ギルデッド・エイジにおける移民労働者の世界……………松本悠子 (77)
——シカゴのアイランド人労働者の場合——
- 民主党成立の序幕……………三川譲二 (109)
——進歩党少壮派の党内「革新」運動——

資料紹介

- 右金吾衛將軍勿部珣の功徳記について……………小野勝年 (148)
——天龍山の百済の一屈化人——

書 評

- Tom Scott, *Freiburg and the Breisgau :
Town-Country Relations in the Age of
Reformation and Peasants' War* ……………渡邊伸 (153)

紹 介

- 佐原眞著『日本人の誕生』大系日本の歴史1 (千葉 豊)
- 龍ヶ崎市教育委員会編『龍ヶ崎市史別編Ⅱ・龍ヶ崎の中世城郭跡
——城郭にみる龍ヶ崎のあゆみ——』(竹田和夫)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

支配している現状があげられよう。このような状況を考慮すると本書の刊行意義は大きい。龍ヶ崎という一地域の枠にとどまらず、全国の城郭研究に対して見直し、修正を迫ると同時に格好の入門書の完成として位置づけられよう。ただ、惜しむらくは、出土遺物(陶磁器等)からの城郭編年によれていない事、史料には頻出するが、堀・土塁をめぐらす居館とは異なる「屋敷(防禦施設をもたない)を広義の城館」としてとらえてよいのかどうか、またその場合中世の在家の痕跡とはどうやって区別するのか、等の最近の発掘の成果から考古学研究者によって論議されている点への言及がなされていない不満も残った。何はともあれ本書の編集に尽力された市村高男、藤本正行の両氏に敬意を表したい。

(B5判 二四九頁 一九八七年三月
龍ヶ崎市教育委員会)

(竹田和夫 新潟県教育委員会)

日本学術会議だより

— No. 8 —

昭和六三年二月 日本学術会議広報委員会

◇公開講演会「ハイテクと人類の将来」

昭和六二年度第一回目の公開講演会は、「ハイテクと人類の将来」という主題の基に一月二一日、京都市の日本イタリヤ京都会館ホールで開催された。

最初に、近藤次郎本会議会長(経営工学)が、「誰が科学の進歩を停められるか——心臓移植からSDIまで——」と題して、まず、人口の増加によって示される人類の発展が科学の発展に支えられてきたことをあげた。一方では、日航機の墜落事故、TMIやチェルノブイリの原発事故、スペースシャトル爆発事故などにより多くの人命が失われたことを述べた。心臓移植などの生命科学の進歩が高度医療技術の倫理問題に関心を集め、SDI構想が宇宙の平和利用に新しい問題を提起しているなどを指摘した。そして、これからの科学・技術の発達には、人文・社会科学と自然科学の調和を図ることが大切であることを強調した。

次いで、関寛治本会議第二部会員(政治

学、立命館大学教授)は、「ハイテク時代の学術ネットワークと平和の条件」と題して、新しい先端的な科学技術が実際に応用可能となってきたことに伴い、ハイテクを駆使したC&Cというネットワークが世界的に可能となり、複雑なネットワークから成る世界政治の構造に大きな変化をもたらしつつあることを指摘した。そして、このような状況を踏まえて、国家という壁を解決していかなくてはならないこと、そのためには、トロンの発想のコンピュータシステムを基礎として学術情報システムのより自由な地球的規模の再編成を行えるようにすること、人間ネットワークの高次化による国の外交政策の在り方の再検討をすることも重要であることを強調した。

最後に、島袋嘉昌本会議第三部会員(経営学、東洋大学教授)は、「人間と高度科学技術との調和」と題して、「高度科学技術の粋を集めた航空機」の事故を取り上げて、その大部分は人為ミスであることを指摘し、このような事故は、人間と高度科学技術の接点で、何らかのそごが生じて起きるものであることを指摘した。そして、現在人間と高度科学技術とをいかにマネージ

していくかについて、十分な科学的分析と管理的配慮がなされていない。その最大の問題点は生命尊厳を基にした経営哲学の欠落であると指摘した上で、人間と高度科学技術との調和を可能にする総合科学の重要性を強調した。

◇公開講演会「情報化と国際化」

昭和六二年度第二回目の公開講演会「情報化と国際化」が、一月二八日、本会議講堂で開催され、各界各層より多数が聴講し、成功裡に終了した。講演は、三人の演者による講演とそれに関連する質疑応答が行われた。演者と題目は次のとおりである。猪瀬博本会議第五部会員（情報工学、学術情報センター所長）「情報技術と国際化」竹内 啓第三部会員（経済統計学、東京大学教授）「情報化時代の国際政治・経済」宇野政雄第三部会員（商学、早稲田大学教授）「企業の情報化と国際化」

（なお、これらの講演会の講演内容は、日学双書として、（財）日本学術協力財団から出版されます。）

◇二国間学術交流（略）

◇日本学術会議の国際的活動（略）

◇生命科学と生命工学特別委員会中間報告

（略）—生命科学の研究と教育の推進方策について—

◇登録学術研究団体等との連絡協議会（略）

『史林』投稿規定

本誌の投稿規定は次の通りです。

◇資格 本会員であること

◇投稿受付原稿の種類、長さ

○論説 四〇〇字詰八〇枚以内

○研究ノート 四〇〇字詰五〇枚以内

○研究動向 四〇〇字詰五〇枚以内

○書評 四〇〇字詰二〇枚以内

○紹介 四〇〇字詰三枚程度

◇論説には四〇〇字以内の「要約」と「英文要約」を添付のこと

◇研究ノート・研究動向・書評には、「欧文タイトル」のみ添付のこと

◇註は各章末に入れること

◇送り先 史林編集委員会

千六〇六

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部内

編集後記

つい先日までわが家でもストーブが大活躍していたのと思ってるうちに、春さえも急ぎ足で立ち去って行ってしまいました。

会員の皆様いかがおすごしでしょうか。第七一卷第三号をお届けします。本号には西洋史から論説が二、国史、現代史から論説がそれぞれ一で計四。久々の四論説です。しかも東洋史からの資料紹介、西洋史からの書評も集まり、充実した内容になりました。本号担当の新米編集委員も今は少しほっとしているところです。充分にご検討ください。

最近の編集会議は原稿の集まりも比較的順調で、ほぼ予定通り進んでおりますが、これから「夏枯れ」になるのではないかと危惧しております。そのため本号には投稿規定を掲載いたしました。なにとぞ会員の皆様の力作のご投稿をお待ちいたしております。（圭）

一九八八年 四月二五日印刷 定価一〇〇〇円
一九八八年 五月一日発行 送料五〇〇円

史 林 第七一卷第三号（通巻第三四九号）

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部

発行人 史 学 研 究 会

理事長 藤 縄 謙 三
振替京都七一一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXXI No. 3

May 1988

CONTENTS

Articles :

- The Byzantine Aristocrats and the Emperors'
Government in the Eleventh CenturyY. Nezu (1)
- Tombs on the Premises in Medieval Japan.....I. Katsuda (41)
- A World of Immigrant Workers in the Gilded
Age: Irish Workers in Chicago.....Y. Matsumoto (77)
- The Prelude to the Formation of
the Democratic Party 民主党.....J. Mikawa (109)

Record :

- The Stele to Record the Pious Deeds of the
General of the Right Imperial Insignia Guard,
Wubu Xun 勿部珣—an Immigrant from
Paekche 百濟 in Tian-long shan 天龍山——K. Ono (148)

Book Review :

- Tom Scott, *Freiburg and the Breisgau :
Town-Country Relations in the Age of
Reformation and Peasants' War*S. Watanabe (153)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369